

その産地はどこにあるのか。
地勢から、歴史から、見つめてわかることは。

そこにはどんな資源があり、
どんな人々がどのように暮らしていたのだろう。

最も輝いていた時代を知ることは、
日本の産業を読み解くこと。

地場産業がもつ技の凄さは、
そのまま人々が繋いできた歴史である。

地場産業は、社会的経済的環境の変化に応じて、新しい原料・製造技術・製品、
あるいは新販売方法を積極的に取り入れて生き残りを図ってきた。
そうした試みこそ、シュンペーターの唱えた革新(Innovation)に他ならない。

「監修のことば」より

In Praise of Local Industries — The Story of Tradition and Innovation —

産学連携特別企画 日本の会社展 第4回

地場“讀”業

— 伝統と革新の軌跡 —

■会期：2018.3.21(水・祝) ▶ 5.20(日)

■会場：帝国データバンク史料館 8F・9F

■主催：帝国データバンク史料館

■監修：阿部 武司 国土館大学教授・大阪大学名誉教授

大島 久幸 高千穂大学教授

岡部 桂史 立教大学准教授

湯澤 規子 筑波大学准教授

■同時開催：中村萬弓 原画展

「愛でる、描く、遊ぶ。」

●住所：〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町14-3

●入館料：無料

●開館時間：10:00～16:30(入館は16:00まで)

●休館日：月曜日(4月30日は開館)

●お問合せ：TEL.03-5919-9600(直通)

www.tdb-muse.jp

